

公立大学法人 中期目標期間業務実績評価書

(平成24年4月1日～平成30年3月31日)

平成30年8月

福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

中期目標期間評価の考え方	-----	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
(1) 全体評価	-----	3 ページ
(2) 項目別評価	-----	4 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

中期目標期間評価の考え方

1 中期目標期間評価の対象期間

平成24年4月1日から平成30年3月31日までの6年間

2 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）ごとに、中期目標の達成状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
- 4：中期目標の達成状況が良好である。
- 3：中期目標の達成状況がおおむね良好である。
- 2：中期目標の達成状況が不十分である。
- 1：中期目標の達成のためには重大な改善事項がある。

3 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標の進捗状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。

※ 評価委員会の評価は、各法人が中期計画において設定した業務実施の計画や達成目標等を踏まえて行なったものであり、法人間の相対評価をしめすものではない。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標（中期目標期間：平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）において、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付け、歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成することを最も重要な使命としている。

平成29年度で第2期の中期目標期間が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評定をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「達成状況が良好である」と評定した。

理事長のリーダーシップの下、大学の個性を生かした特色ある教育を行うなど、社会の発展に貢献できる優れた人材の育成をはじめとした取組を着実に実施している。

また、中期目標に掲げている重点事項についても、学生の歯科医療人としての自覚を高めるため、歯科医学教育センターを立ち上げ、歯学教育全般の改編を図るとともに、口腔保健・健康長寿推進センターにおいて、地域歯科医療関係者に対して、リカレント教育を行うなど、全体としては、達成状況が良好であると認められる。

歯科保健医療の現場において、医療技術の高度化・専門化に加え、高齢化の進展に伴う疾病構造の変化など、多様化するニーズへの適切な対応が求められる中、質の高い教育活動を展開し、国家試験合格率の高水準での維持をはじめ、高度な専門性を持った歯科医療人の育成を進める必要がある。

平成30年度から第3期の中期目標期間に入り、新たなスタートを切った公立大学法人九州歯科大学が、理事長のリーダーシップの下、魅力ある大学づくりを一層推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成
 - ・演習科目を充実させた初年次教育に再編し、プロフェッショナリズムの醸成をカリキュラムの中に位置づけるとともに、歯科医学教育センターを立ち上げ、単独科目として開講した早期登院実習や学外宿泊研修などの充実を図っている。
 - ・臨床登院実習を中心にカリキュラムを充実し、他職種連携の意識の醸成を目的とした歯学科と口腔保健学科の合同講義などを実施するとともに、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験のトライアルを実施するための体制を整備している。
 - ・臨床実習技術指導の充実やチューター制度の活用、個別指導体制の強化を図るとともに、学生データ等を分析するIR室や歯科医師国家試験分析室を設置し、歯科医師国家試験合格率の向上に積極的に取り組んでいる。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成
 - ・口腔保健学専攻修士課程を設置し、入学定員充足率を充たすとともに、歯学専攻博士課程に進学できる体制を整備し、修士課程修了者が進学するなど、人材の育成を進めている。
 - ・文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、4大学間で締結した協定に基づき、単位互換を実施するとともに、国際会議を開催し、大学院生による研究発表を行うなど、医歯工連携により人材を育成している。
- (3) 教員の教育力の向上
 - ・ファカルティ・ディベロップメント部会、一般スタッフ・ディベロップメント部会、医療系スタッフ・ディベロップメント部会を設置し、大学ガバナンスや教職協働に関する研修を行うとともに、学長等による多面的な個人業績評価や学生及び教員による授業評価を実施するなど、教育活動の改善に努めている。

(4) 適性のある優秀な人材の確保

- ・模擬講義の実施などの高大連携に取り組むとともに、高校訪問、オープンキャンパス、施設見学会等の入試広報活動を積極的に実施し、志願倍率を高水準で維持している。

(5) 学生への支援

- ・教職員が一体となって、きめ細かな学生支援を実施するとともに、学生支援に関するアンケート調査やキャンパスライフ・ガイダンス、保護者説明会等を実施している。
- ・学生との面談やセミナーの開催、民間企業や総合病院等への就職の開拓など、就職支援実施会議を活用した組織的就職支援により、口腔保健学科において、就職率100%を達成している。
- ・熊本地震の被災者等を支援するため、授業料の減免等を行うとともに、入学料免除等の特別措置を整備した。

2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の獲得件数が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。
- ・「地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト」において医歯工学連携を推進するとともに、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に連携校として参加するなど、産学官連携を推進している。

3 社会貢献

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

社会貢献については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「口腔保健・健康長寿推進センター」を設置し、歯科医師等を対象とした摂食嚥下障害や全身疾患がある患者の口腔機能向上に関する実践的教育を実施するとともに、全国各地の関連セミナーで講演を行うなど、リカレント教育の充実を図っている。
- ・7か国・地域10大学と学術交流協定を締結し、短期留学生の受入れや、海外学生短期派遣プログラムを正規の選択科目として実施するなど、海外大学との交流を促進していることを評価する。
- ・幼稚園、老人クラブ等で歯科口腔保健に関する講演や相談を実施し、子育て支援や高齢者の健康増進に資する普及・啓発を行っている。
- ・熊本地震及び九州北部豪雨災害に係る募金活動を実施した。

4 業務運営

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、プロパー職員を採用するとともに、外部研修会への職員派遣を行っている。
- ・患者中心の診療体制と学修者中心の教育体制の共存を図るため、附属病院の診療体制を再編するとともに、電子カルテシステムの導入により、診療業務の効率化や診療科間の連携化、臨床教育の充実を図っている。
- ・地域医療関連病院等との連携を拡充し、高齢者を中心とした口腔医療を訪問診療で提供するなど、地域包括型歯科医療連携体制を整備している。

5 財務

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・ 歯科診療所では対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の体制を整備し、実施回数が目標を上回った。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

評価及び情報公開については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。
- ・ 創立百周年記念事業を実施し、大学情報を広く発信するとともに、創立百周年記念事業募金により設立した基金を活用して、国際交流活動を推進するなど、大学のプレゼンスを高めている。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡女子大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標（中期目標期間：平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）において、時代や社会の変化に柔軟に対応できる豊かな知識と確かな判断力、しなやかな適応力を持ち、アジアや世界の視点に立って、国内はもとより、海外の国や地域において、より良い社会づくりに貢献することのできる女性を育成することを最も重要な使命としている。

平成29年度で第2期の中期目標期間が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評定をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（社会貢献）について「達成状況が非常に優れている」、5項目（教育、研究、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「達成状況が良好である」と評定した。

理事長のリーダーシップの下、大学の個性を生かした特色ある教育を行うなど、社会の発展に貢献できる優れた人材の育成をはじめとした取組を着実に実施している。

また、中期目標に掲げている重点事項についても、国際的な学習環境を提供するために、海外有力大学との交換留学や語学研修への学生派遣、外国人留学生の受入れを積極的に行うとともに、女性のキャリア形成のための教育プログラム等を実施するなど、全体としては、達成状況が良好であると認められる。

グローバル化の急速な進展に伴い、社会経済の状況が大きく変化する中、地域が活力にあふれ、持続的に成長、発展していくためには、国際的な感性を持ち、主体的に活躍することのできる女性の育成が求められている。

平成30年度から第3期の中期目標期間に入り、新たなスタートを切った公立大学法人福岡女子大学は、平成35（2023）年に創立100周年を迎える。引き続き、理事長のリーダーシップの下、魅力ある大学づくりを一層推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) グローバル化時代に求められる基盤的・実践的な能力を養成する学部共通の教育
 - ・ファーストイヤー・ゼミ運営方法の改善や授業運営のためのヒント集の作成、副専攻プログラムの設定や新たな教育設備の整備など、授業・演習の充実を図っている。また、クォーター制の導入に向けたカリキュラムの見直しを行った。
 - ・学術英語プログラムやアドバンスト・イングリッシュ等の充実を図るとともに、専門科目における英語による授業やランゲージカフェの実施、e-ラーニングの提供など、英語教育の強化に努めている。
 - ・交換留学、体験学習、語学研修等の海外派遣学生数が目標を大幅に上回っており、国際的な学習環境の充実に積極的に取り組んでいることを評価する。
 - ・企業や公共機関等と連携したサービスラーニングや海外でのフィールドスタディ、長期学外学修プログラムなど、実践的な能力を培う体験学習の充実を図っている。
 - ・「国際学友寮 なでしこ」での全寮制教育において、英語活動や国際交流活動の企画・運営、テーマ別の地域交流活動など、寮運営の活性化に学生が主体的に取り組んでいる。
 - ・日本B P W連合会による国連「女性の地位委員会」インターン派遣に学生が参加した。
- (2) グローバル社会の課題に対応した各学科の教育
 - ・栄養・健康関連の海外体験学習プログラムの実施や、実験・実習機器等の整備による専門教育の充実を図るとともに、管理栄養士国家試験の合格率が、高水準を維持している。
- (3) 大学院教育
 - ・国際文理学部の教育研究を発展・深化する新しい大学院研究科として、人文社会科学研究科（博士前期課程、博士後期課程）及び人間環境科学研究科（博士前期課程、博士後期課程）を開設し、教育研究の充実を図っている。

(4) 教員の教育能力の向上

- ・教育成果の検証を行うとともに、学生による授業評価結果のフィードバックや公開授業を実施するなど、ファカルティ・ディベロップメントの推進に努めている。

(5) 意欲ある学生の確保

- ・インターネット出願を導入するとともに、高校訪問、出前講義、オープンキャンパス等の入試広報活動に積極的に取り組み、国内外の多様な学生を確保している。

(6) 学生支援の充実

- ・学術情報センターにおいて、図書館システムの充実や、企画展示、図書の寄贈受入れを行うなど、学習研究活動を支援するとともに、メンタルヘルス等の支援体制を強化している。
- ・企業訪問や就職対策講座、個別指導等を実施し、新規卒業生全体の就職率が、高水準を維持しているとともに、外国人留学生の就職率が目標を大幅に上回っていることを評価する。
- ・熊本地震の被災者等を支援するため、授業料の減免等を行うとともに、入学料免除等の特別措置を整備した。

2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「東部地域大学連携」等での連携事業を実施するとともに、「アジア地域大学コンソーシアム福岡」の枠組みの下、共同研究を進め、「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」へと拡大・発展させるなど、国内外の大学との学術交流を積極的に推進していることを評価する。
- ・科学研究費補助金の新規獲得率が向上し、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

3 社会貢献

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

社会貢献については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や中期計画に掲げる実施内容以外にも社会貢献に関する積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」や「女性トップリーダー育成研修」など、女性のキャリアアップ支援のための実践的教育プログラムを実施するとともに、女性の活躍推進福岡県会議に主体的に参画していることを評価する。
- ・地域連携センターにおいて、東部地域大学連携による地域振興や学生ボランティア活動の支援、留学生と地域との国際交流など、地域との交流・連携を推進している。
- ・出前講義や高校生イングリッシュ・キャンプ等の小中高との教育連携の推進や壮年・高齢期のアクティブな学習の場を提供する生涯学習カレッジの開講、福岡女子大学美術館を活用した講座の実施など、大学の知的資源を地域に還元している。
- ・「アジア地域大学コンソーシアム福岡」を契機とする国際共同教育プログラム「EAT」により、海外大学との教職員交流及び学生交流を促進するとともに、若手女性研究者の交流に向けた環境整備や若手教員の海外トレーニングプログラムの開発を進めている。
- ・短期受入留学生数や留学生をサポートする日本人学生（JD-Mates）の登録者数が目標を大幅に上回るとともに、私費外国人受入留学生の受け入れ国の多様化が進んでいることを評価する。
- ・留学フェアやイングリッシュ・ビレッジ等在校生の海外志向を高める取組を実施するとともに、危機管理体制を強化し、学生の海外派遣を推進している。
- ・熊本地震及び九州北部豪雨災害に係る募金活動を実施するとともに、被災地支援ボランティアに参加した。

4 業務運営

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・組織運営の改善を図るとともに、事務局機能の強化に向けて、プロパー職員の採用や職員の英語力向上等の研修、若手プロパー職員の自主企画による先進他大学調査を行っている。

5 財務

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を大幅に上回る収入実績をあげていることを評価する。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

評価及び情報公開については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、英語版ホームページの充実や大学案内のデジタルパンフレット化などを図っている。また、教員の専門分野や研究概要等に関する冊子を配布している。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標（中期目標期間：平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

平成29年度で第2期の中期目標期間が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評定をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「達成状況が良好である」と評定した。

理事長のリーダーシップの下、大学の個性を生かした特色ある教育を行うなど、社会の発展に貢献できる優れた人材の育成をはじめとした取組を着実に実施している。

また、中期目標に掲げている重点事項についても、人間社会学部を改革し、全学横断型教育プログラムを開設するとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業等、社会貢献活動を積極的に実施するなど、全体としては、達成状況が良好であると認められる。

少子高齢化の進展等に伴い、家族や地域の支援力が低下している状況の中、保健・医療・福祉の分野横断的な知識・技能及び情報化に対応した包括的技能を有した人材の育成や、地域に開かれた大学として地域と連携した取組がますます重要となっている。

平成30年度から第3期の中期目標期間に入り、新たなスタートを切った公立大学法人福岡県立大学が、理事長のリーダーシップの下、魅力ある大学づくりを一層推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

（1）教養教育の充実

- ・グローバル化へ対応するための新科目や教養演習英語クラスを開講するとともに、教養演習の共通テキストの改訂や授業担当者へのワークショップを行っている。

（2）専門教育の充実

- ・人間社会学部において専門性を高めるため、学科制からコース制への移行に伴い、各コースのカリキュラムの見直しを行い実施した。
- ・看護学研究科において、専門看護師コース（精神看護、老年看護）、助産実践形成コース、助産実践アドバンスコースを開設し、高度な専門看護職教育の充実を図るとともに、在学生と修了生のネットワーク化に取り組んでいる。
- ・他大学との連携によるインターンシップ・プログラムの開発など、インターンシップを通じた教育強化に取り組むとともに、「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」を構築し、単位互換や合同短期研修などを実施していることを評価する。

（3）教育効果を検証するシステムの構築

- ・看護師、保健師、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率や就職率が、高水準を維持していることを評価する。

（4）教員の教育能力の向上

- ・教員間の授業参観や公開授業の実施、授業自己評価・対応プランの作成、ブラッシュアップセミナーの開催など、ファカルティ・ディベロップメントの推進に努めている。

(5) 優秀な学生の確保

- ・オープンキャンパスの開催や入試説明会への参加、SNSを活用した情報発信等、入試広報活動に積極的に取り組み、志願倍率の高水準の維持に努めている。
- ・意欲ある学生を確保するため、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。

(6) 学生支援の充実

- ・系統的キャリア形成支援講座や段階的インターンシップ・プログラム、マイキャリアポケット（社会貢献活動記録帳）など、きめ細かなキャリア形成支援に努めるとともに、GPA制度を活用した個別の学習支援を行っている。
- ・熊本地震の被災者等を支援するため、授業料の減免等を行うとともに、入学料免除等の特別措置を整備した。
- ・経済的理由により修学を継続することが困難な学生に対し、福岡県立大学特別奨学金による支援を行った。

(7) 学習環境の充実

- ・図書館の情報端末を充実するとともに、図書館セミナーや学生選書ツアーを開催するなど、学生が利用しやすい環境づくりを進め、ラーニングコモンズや開館延長時間内の利用が促進されている。

(8) 人間社会学部の改革

- ・教員組織の改革として学科制度を廃止し、全教員を「人間社会学系」所属とするとともに、4つの全学横断型教育プログラム（保健福祉情報教育プログラム、援助力養成プログラム、国際交流プログラム、キャリア形成支援プログラム）を開設したことを評価する。
- ・国際交流プログラムに新たに設定した4年間で卒業が可能な留学コースを利用して、学生が長期留学した。

(9) 両学部連携の大学院博士課程の新設

- ・博士課程の新設について方向性を検討している。

2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の応募率が向上し、獲得件数が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

3 社会貢献

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

社会貢献については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域・国際交流コーディネーター及び国際交流チューターを配置し、協定締結校との文化・学術交流事業や短期研修プログラム（派遣）の実施など、国際交流を推進するとともに、受入留学生数が遡増している。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、不登校やその支援に関する相談や県大子どもサポーターの派遣、キャンパス・スクールなどを実施し、不登校・ひきこもり対策に優れた実績を上げるとともに、福岡県不登校児童生徒復帰支援事業を実施していることを評価する。
- ・社会貢献・ボランティア支援センターにおいて、外部団体と学生とのコーディネートを行うとともに、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を実施し、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣するなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援している。
- ・生涯福祉研究センター及びヘルスプロモーション実践研究センターにおいて、地域ニーズを踏まえた資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施に努めている。
- ・熊本地震及び九州北部豪雨災害に係る募金活動を行った。

4 業務運営

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、プロパー職員を採用するとともに、外部研修会への職員派遣を行っている。
- ・改革推進委員会の設置、学内委員会・部会の抜本的再編を行い、全部会を主要5委員会の下に位置付けることで、意思決定の枠組みを明確にし、委員会・部会の活性化を図った。

5 財務

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・週休日の振替を徹底するなど、時間外勤務の縮減とワークライフバランスの推進を図っている。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

評価及び情報公開については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、教育プログラムにおける特色ある取組の広報やプロモーションビデオ（国際版）の制作など、プレゼンスの向上を図っている。